長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第 23 集

長崎県埋蔵文化財調査年報２５

［平成 28 年度調査分］

２０１７

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県には先人たちが残した3,800箇所を超える遺跡（埋蔵文化財）があります。こうした埋蔵文化財は郷土の歴史を物語り、地域づくりや人づくりに活用できる国民共有の財産です。私たちはこれら先人から受け継いだ貴重な文化財を適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

長崎県教育委員会では、国や県の公共事業に伴う開発が行われる際には事前に予備調査や開発部局との協議を行って埋蔵文化財の保護を図り、その結果、事業による破壊が避けられない場合は記録保存のための発掘調査を実施しています。平成28年度は大村市・諫早市における九州新幹線西九州ルート建設に伴う発掘調査や、同じく大村市における都市計画道路建設に伴う発掘調査を行いました。また長崎県埋蔵文化財センターでは、遺跡の保存や全容解明のための範囲確認調査を、「原の辻遺跡」と「鷹島海底遺跡」で継続的に実施しています。

本書は、平成28年度に長崎県教育委員会が行った全ての発掘調査の概要、長崎県埋蔵文化財センターが行った調査研究や遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しています。本書が、県民の皆様の郷土の歴史や文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

平成29年11月

長崎県教育委員会教育長

池　松　誠　二

例　言

1　本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成 28 年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。
2　調査遺跡名の【　】内は長崎県教育委員会の実施した遺跡調査番号である。
3　調査概要の遺跡位置図は、国土地理院発行の地図（1／25,000）または長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』を使用・加工し作成している。
4　各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者は文末に記している。
5　本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本　文　目　次

Ⅰ．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　1．県が実施した公共工事に伴う発掘調査の現状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2．本県の埋蔵文化財保存活用事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
　3．長崎県埋蔵文化財センターの事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　（1）調査研究事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　（2）保存処理事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
　　（3）教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　　（4）東アジア考古学研究事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
Ⅱ．平成 28 年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
Ⅲ．平成 28 年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
Ⅳ．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　1．事業別発掘調査届出件数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　2．県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
Ⅴ．平成 28 年度における発掘調査の履歴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
Ⅵ．平成 28 年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要　・・・・・・・・・・・・・ 16
　1．一里松遺跡（本調査）【201601】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　2．三城城下跡（本調査）【201602】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　3．立小路遺跡（本調査）【201603】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　4．竹松遺跡［車両基地］（本調査）【201604】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　5．川端遺跡（隣接地）（試掘）【201605】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
　6．今富城跡（本調査）【201606】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
　7．三城城跡（試掘・範囲確認）【201607】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

８．竹松遺跡［都市計画道路］（本調査）【201609】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
９．原の辻遺跡（範囲確認）【201610】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
10．平ノ前城跡（本調査）【201611】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
11．長崎奉行所跡（範囲確認）【201612】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
12．滝河原遺跡（本調査）【201613】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
13．百間竈遺跡（範囲確認）【201614】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
14．鷹島海底遺跡（音波探査）【201615】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

（報告書抄録）

Ⅰ．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

1．県が実施した公共工事に伴う発掘調査の現状

本県では九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴う発掘調査が本格的に実施されており、平成 21 年 10 月末と平成 25 年 8 月に実施した分布調査により 13 遺跡 28 箇所（試掘 12 箇所・範囲確認調査 13 箇所・本調査 3 箇所）で事業着手前に調査が必要であることが確認されている。また、長崎までの同時着工が平成 23 年に認可され、大村市内竹松遺跡周辺に計画されていた新幹線の保守基地が車両基地に格上げされたため、建設予定面積が約 11 万㎡となり、発掘調査の規模がさらに増大した。調査は用地買収の進捗に合わせて着手しており、平成 27 年度までに試掘・範囲確認調査、平成 28 年度までに本調査を完了する予定で進めてきた。

平成 28 年度の調査としては、大村市竹松遺跡をはじめとする 5 遺跡、約 5,000 ㎡で本調査が実施されている。大村市竹松遺跡では約 2,300 ㎡の調査が実施され、遺跡の北端部にあたるため良好な遺構等はあまり確認されなかったが、自然流路跡が検出され遺跡の北限域が確認された。また、同市三城城下跡では約 1,500 ㎡の調査が実施され、17 世紀前半の井戸や掘立柱建物跡、柵列などの遺構や、陶磁器・瓦など多数出土し、絵図に描かれている寺院に関連する遺構等が確認されている。諫早市一里松遺跡では約 600 ㎡の調査が実施され、遺構は確認されなかったが、縄文時代前期と後期の良好な遺物包含層が確認され、狭小な河岸段丘上に広がる縄文時代の遺跡の存在が明らかとなっている。

新幹線車両基地の東側の位置に計画されている都市計画道路の建設においても県による発掘調査が実施された。竹松遺跡では約 1,200 ㎡の調査が実施され、昨年度に近隣の調査区で確認された古代末期の遺構に続く掘立柱建物跡などの遺構や青磁・白磁などの 12 世紀から 13 世紀にかけての多数の遺物が出土している。また、大村市立小路遺跡では約 1,700 ㎡の調査が実施され、縄文時代晩期の埋甕や弥生時代中期の竪穴建物跡、中世の掘立柱建物跡の遺構が確認され、竹松遺跡からの郡川流域における遺跡の広がりが確認された。

竹松遺跡（都市計画道路）遺構完掘状況

立小路遺跡（都市計画道路）遺構調査状況

2．本県の埋蔵文化財保存活用事業　～明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業～

（1）開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1) 開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2) 文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

研修風景

期　日　平成 28 年 5 月 20 日（金）

会　場　出島交流会館 2 階会議室

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験 3 年未満を主体）　計　70 名

内　容　・埋蔵文化財諸届に関する確認事項

・開発部局から見た埋蔵文化財の取り扱いについて

・埋蔵文化財関係補助金制度の説明

・東日本大震災復興支援における発掘調査

・埋蔵文化財センターと連携した出土遺物の保存・活用　など

（2）長崎県市町文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目　的　市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

会議風景

期　日　平成 28 年 7 月 5 日（火）

会　場　出島交流会館 2 階及び 11 階

参加者　県及び市町文化財行政担当者　　計　52 名

内　容　・「長崎県総合計画チャレンジ 2020」実現に向けての文化財の保護と活用

・現状変更に対する適切な対応について
・文化財関係補助金について
・文化財の活用　～史跡鷹島神崎遺跡の普及啓発事業～
・その他、市町からの協議・照会事項について

（3）埋蔵文化財担当者専門技術研修

目　的　遺跡から出土する石材の基礎的な知識および調査方法に関する研修を通して、埋蔵文化財専門職員としての資質の向上を図る。

日　時　平成 28 年 12 月 1 日（木）・2 日（金）

会　場　長崎県埋蔵文化財センターおよび壱岐島内石材原産地

講　師　隅田祥光（長崎大学教育学部地学教室准教授）、川道寛（埋蔵文化財センター調査課長）

参加者　県内埋蔵文化財担当者 6 名及びセンター職員

内　容　・石材研修
・黒曜石原産地分析の現状
・黒曜石の分析（持参資料を蛍光 X 線分析装置でデータ取り⇒判別図の作成）
・壱岐島内石材原産地巡検「初瀬（ハゼ）の岩脈⇒黒曜石原産地（久喜⇒高源寺）」

岩石・鉱物に関する講義

黒曜石の分析実習

偏光顕微鏡を用いた石材研修

黒曜石原産地巡検

3．長崎県埋蔵文化財センターの事業

（1）調査研究事業

平成 28 年度に長崎県埋蔵文化財センターが実施した調査研究事業の概要は以下のとおりである。

東アジア考古学研究室が毎年実施している原の辻遺跡の範囲確認調査は、前年と同じく丘陵北側の芦辺高原地区において「環濠に囲まれた丘陵部の居住域と河川の間の土地利用のあり方」の確認を目的として平成 28 年 10 月 31 日～平成 28 年 12 月 28 日にかけて実施した。調査面積は 300 ㎡である。調査の結果、幅 1.3m ～ 1.5m、深さ 50cm の弥生～古墳時代にかけての溝 2 条が確認された。5m ほどの間隔で平行しほぼ直線的に構築されている。

平成 25 年度から実施している鷹島海底遺跡の調査は、過去 3 年間実施してきた目視調査にかえて、音波探査による海底下の調査を実施した。平成 29 年 2 月 27 日～ 3 月 4 日、鷹島神崎遺跡沖を 1,500m × 350m の範囲で音響を利用した海底地層探査装置を用いて海底下の堆積構造を調査した。その結果多くの異常反応点が確認され、今後新たな沈没船の存在する可能性を示すことができた。

国・県の開発に伴う調査としては、平成 28 年度都市計画道路池田沖田線建設工事に伴い大村市竹松町に所在する竹松遺跡の本調査を実施した。調査に要した期間は平成 28 年 10 月 24 日～平成 29 年 2 月 10 日、調査面積は 1,422 ㎡に及んだ。調査の結果、古代の掘立柱建物跡など多くの遺構が検出された。

移転が予定されている長崎県立図書館の範囲確認調査を行った。調査は、図書館の蔵書整理期間にあわせて平成 29 年 1 月 23 日～ 1 月 27 日にかけて、駐車場部分に 3 箇所の試掘坑を設定し調査した。その結果、第 1 試掘坑において近世初期の造成の可能性が指摘された。

専門職員未配置の市町に対する支援は 2 件でいずれも民間の開発に伴うものであったが、調査自体が小規模なものであり本センターで対応することとした。KDDI 無線基地局新設工事に伴う新上五島町滝河原遺跡、小型風力発電設置に伴う五島市百間竈遺跡の調査はともに遺構・遺物ともに確認されなかった。

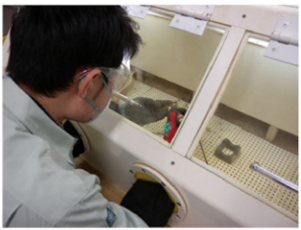
調査研究事業に係る発掘調査報告書として前年度に調査した「井樋提塘跡」「練早家御屋敷跡」の 2 冊を刊行した。また原の辻遺跡調査研究事業として平成 27 年度調査の報告書もあわせて刊行した。

（2）保存処理事業

県保有資料の土製品 42 点、石製品 1 点、木製品 47 点、金属製品 303 点の計 393 点に関して国庫補助事業を活用して保存処理を行った（表 1）。保存処理を実施する前にすべての資料に関して保存処理カード（カルテ）を作成し、処理前写真の添付、劣化状態や破片数などを記入している。土製品・石製品は顕微鏡下でメスなどを用いて表面のクリーニングを実施し、必要に応じて超音波洗浄機を使用して空隙内の汚れなどを除去した後、アクリル樹脂に浸漬含浸し強化した。木製品はトレハロース含浸処理法により保存処理を実施した。従来、木製品の保存処理には PEG（ポリ・エチレン・グリコール）を使用してきたが、小型の木製品でも処理期間に約 1 年を要するのと、処理後の保管環境が高温多湿になると含浸した樹脂が溶け出してしまうといった問題があった。トレハロースは合成甘味料である糖類であり、PEG に比べて分子量が引く含浸期間が短くすみ、また吸湿性も低いため処理後の保管環

境もPEGに比べると管理が容易になる。金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過X線撮影等事前調査を実施したのち、錆取り作業⇒脱塩処理（銅製品はベンゾ・トリ・アゾール（BTA）処理）⇒樹脂強化含浸処理⇒接合・修復を実施した。

原の辻遺跡出土の漆塗り木製品



鉄製品の錆取り作業

表1　平成28年度国庫補助事業による保存処理一覧

◆土製品・石製品：43点

遺　跡　名	所在地	処理点数	処理内容	時代	備　考
葛城遺跡	大村市	8点	アクリル樹脂（エマルジョンタイプ）を減圧含浸又は表面塗布	縄文時代	長崎県報第98集
野田A遺跡	大村市	1点		縄文時代	長崎県報第98集
野田の久保遺跡	大村市	33点		縄文時代	長崎県報第98集
黒丸遺跡	大村市	1点		弥生～近世	長崎県報第204集

◆木製品：47点

遺　跡　名	所在地	処理点数	処理方法	時代	備　考
原の辻遺跡	壱岐市	47点	トレハロース処理	弥生時代	調査番号：201513

◆金属製品：303点

遺　跡　名	所在地	処理点数	処理内容	時代	備　考
平野遺跡	大村市	1点	透過エックス線撮影↓錆取り作業↓脱塩・BTA処理↓樹脂含浸強化	弥生～古墳	調査番号：201305
諫早家御屋敷跡	諫早市	240点		江戸～近代	調査番号：201510、201518
原の辻遺跡	壱岐市	1点		弥生時代	調査番号：201513
桜町遺跡	長崎市	61点		江戸～近代	長崎県報第144集

総計393点

また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、平成28年度は3市からの利用があり計80点の保存処理を行った（表2）。

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査も行っている。外部利用も受け入れており、平成28年度は11機関が、実体顕微鏡撮影装置、透過X線撮影装置、蛍光X線分析装置、三次元計測器などを利用した（表3）。

表２　県内市町保存処理点数一覧

市町名	利用機関	種別	点数
長崎市	長崎市文化財課	木製品	7
佐世保市	佐世保市教育委員会	木製品	3
		金属製品	30
		ガラス	1
壱岐市	壱岐市文化財課	木製品	7
		金属製品	8
		土器	6
		ガラス	18

計：８０点

化石の三次元計測（長崎市）

表３　平成 28 年度精密分析機器外部利用一覧

利用時期	利用者	利用内容	利用機器
2016年5月	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土金属製品の調査	透過Ｘ線撮影装置
2016年5月	雲仙市教育委員会	黒曜石の分析	蛍光Ｘ線分析装置
2016年6月	佐世保市教育委員会	鬼塚古墳出土金属製品の調査	透過Ｘ線撮影装置、錆取り装置
2016年6月	長崎県文化振興課	埴瓦の成分分析	蛍光Ｘ線分析装置
2016年7月	東京理科大学	古墳出土ガラス製品の調査	実体顕微鏡
2016年7月	雲仙市教育委員会	黒曜石の分析	蛍光Ｘ線分析装置
2016年8月	雲仙市教育委員会	黒曜石の分析	蛍光Ｘ線分析装置
2016年9月	大分歴史文化博物館	キリシタン資料の成分分析	ハンディ型蛍光X線分析装置
2016年9月	宗像市教育委員会	黒曜石の分析	蛍光Ｘ線分析装置
2016年10月	佐世保市教育委員会	鬼塚古墳出土金属製品の調査	透過Ｘ線撮影装置、錆取り装置
2016年11月	壱岐市教育委員会	早岐瀬戸遺跡出土磁器の成分分析	蛍光X線分析装置
2017年1月	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土金属製品の調査	透過Ｘ線撮影装置
2017年2月	長崎市出島復元整備室	木製品の保存処理	ＰＥＧ含浸処理装置
2017年3月	長崎市生涯学習課	恐竜化石の三次元計測	三次元計測器、３Ｄプリンター
2017年3月	佐世保市教育委員会	鬼塚古墳出土金属製品の調査	透過Ｘ線撮影装置、錆取り装置
2017年3月	福岡県文化財保護課	黒曜石の分析	蛍光Ｘ線分析装置

（３）教育普及事業

①オープン収蔵展示

調査研究の成果を紹介するため、併設する壱岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ 5m のガラス張りで、キッズこうこがく研究所および博物館２階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して、遺物の展示を行っている。

平成 28 年度は以下の３つのテーマで遺物展示を行った。

展示ブースの一角

テーマ	主な展示品	期間
『考古学ストーンコレクション展』	ヒスイ製勾玉・碧玉製管玉（景華園遺跡）、緑色凝灰岩製石鋤（原の辻遺跡）、細石刃・細石刃核・石槍（茶園遺跡）、打製石鏃・局部磨製石鏃（鷹野遺跡）、玄武岩製石斧（浦海遺跡）、砂岩製石棒（黒丸遺跡）、滑石製石鍋未成品（メヒトツボ遺跡）、碁石（諫早家御屋敷跡）、赤間石製硯（万才町遺跡）	平成28年6月11日 ～ 平成28年10月2日
『原の辻遺跡研究成果展』	ナウマンゾウの化石、4万3500年以上前の自然木、旧石器時代の石器、縄文時代の石器、地震痕跡の写真、大陸・半島系土器（粘土帯土器、楽浪・遼東系土器、三韓系土器、陶質土器）、中国貨幣（大泉五十、貨泉、五銖銭）、石鋤（原の辻遺跡）	平成28年10月8日 ～ 平成29年2月5日
『長崎の近世瓦展』	軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・鯱瓦（長崎奉行所跡）、軒平瓦・本谷丸瓦（石田城跡）、軒丸瓦・軒平瓦（沖城跡）、軒丸瓦・丸瓦・平瓦（玖島城跡）、軒丸瓦・丸瓦・平瓦（壱岐嶋分寺跡）	平成29年2月11日 ～ 平成29年7月2日

②情報誌

子ども向け情報誌として『キッズこうこがく』を年2回、B2ポスターサイズで発刊した。『キッズこうこがく』は県内の遺跡を分りやすく解説した記事を掲載しており、県内学校や教育機関などに配布し、ホームページにも掲載している。

また、一般向けPDF情報誌として『南北市緯』第10号をホームページで配信した。平成28年度の東アジア国際シンポジウムに関するプレ・コラムや、平成27年度の遺跡発掘調査に関する記事を分りやすく掲載している。

③ホームページおよびFacebookの公開更新

ホームページ（http://www.nagasaki-maibun.jp/）には『施設案内』のほか、発掘調査の着手をお知らせする『センター発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物やキッズこうこがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書などを掲載している。また平成26年9月からはFacebookページ（http://fb.com/1461241530809034）を開設し、親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。

④体験学習

『精密分析機器で調べてみよう』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を年間10回行っている。子どもたちに分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを、精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。平成28年度は10回の開催で計100名の参加があった。

『精密分析機器で調べてみよう』

⑤バックヤードツアー

埋蔵文化財センターに併設されている一支国博物館では、毎月第３土曜日にバックヤードツアーをセンターと共催で実施している。埋蔵文化財センターの保存処理施設や出土品収蔵庫等を見学するツアーで、博物館学芸員とセンター職員とで対応している。平成 28 年度は 12 回の開催で計 120 名の参加があった。

⑥資料貸出・閲覧・掲載許可

収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適切であれば許可している。平成 28 年度は 16 件の申請があり約 1,800 点に関して対応した。

平成28年度実績	件数	点数
考古資料等貸出	3	55
考古資料閲覧	5	1697
写真等掲載許可	8	34
計	16	1786

⑦長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援

本センターの特色ある取組の一つとして、壱岐高校の東アジア歴史・中国語コース支援をあげることができる。この取組では、センター職員がコースの授業を担当したり体験入学等を支援したりしている。平成 28 年度は、3 年生の歴史学専攻の生徒がいなかったため 3 年生の専門の授業は実施しなかったが、1 年生の「歴史学入門」を 10 回、2 年生の「考古学入門・生活文化史」を 18 回実施した。授業形態は、一般的な講義形式のものから原の辻遺跡の発掘体験、島内巡検など多様な内容となっている。また、2 回行われた体験入学においては、参加した保護者や中学生に対して授業内容の紹介やセンター施設の見学等を実施した。

学校設定科目の授業に関すること

			歴史学入門（1学年）		考古学入門・生活文化史（2学年）	
月	日	曜	授業名	担当者	授業名	担当者
4	19	火			考古学研究法	古澤・橋本
	26	火	壱岐の史跡	古澤・橋本	壱岐の史跡	古澤・橋本
5	10	火	博物館・センター見学	橋本他	土器概説①	松元・橋本
	24	火			土器概説②	松元・橋本
6	7	火			木器・金属器概説	片多・山梨・橋本
	21	火	東アジアの地誌	古澤・橋本	東アジアの地誌	古澤・橋本
7	5	火	東アジアの歴史	古澤・橋本	東アジアの歴史	古澤・橋本
9	13	火			博物館学・展示方法の研究	片多・橋本
	20	火			課題研究テーマ検討	古澤・橋本
	27	火			石器概説	川道・橋本
10	25	火			考古学調査法	川道・橋本
11	8	火	原の辻遺跡特論	川道・橋本	原の辻遺跡特論	川道・橋本
	22	火	原の辻遺跡体験①	古澤・橋本	レベル実測①	古澤・橋本
	29	火	原の辻遺跡体験②	古澤・橋本	レベル実測②	古澤・橋本
1	17	火	埋文センター体験	橋本	整理作業実習①	川道
	24	火	拓本と り体験	古澤・橋本		
	31	火			整理作業実習②	古澤・橋本
2	14	火			壱岐の遺跡	古澤・橋本
3	14	火	壱岐の文化財	古澤・橋本	壱岐の文化財	古澤・橋本

体験入学等に関すること

月	日	曜	行事名	担当者	行事内容
4	7	木	第1回センター―壱岐高連絡協議会	所長、室長、橋本	自己紹介、新年度のコース運営等の協議・調整
8	27	土	第1回コース体験入学	橋本	コース授業の概要説明、一支国博物館・埋文センター案内
11	5	土	第2回コース体験入学	橋本	コース授業の概要説明、一支国博物館・埋文センター案内
2	21	火	センター―壱岐高授業担当職員事前打ち合わせ	橋本	連絡協議会前の事前打ち合わせ
	27	月	コース3年生表敬訪問	館長、所長、室長、片多、古澤、橋本	所長・授業に関わった職員との懇談会
3	15	水	第2回センター―壱岐高連絡協議会	所長、室長、橋本	年度末反省及び次年度計画の協議・調整

原の辻遺跡の発掘実習

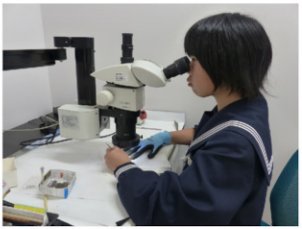
体験入学の案内

⑧学校教育支援「埋文ＭＡＩＢＵＮ学びのサポート」

本センターは、「埋文ＭＡＩＢＵＮ学びのサポート」という学校教育支援を行っている。これは、センター職員の高い専門性や、石器・土器など実際の遺物、さまざまな機器を活用したセンターでの学習や出前授業等を通して、考古学への児童生徒の興味・関心を高めるほか、幅広い知識や技能の習得をサポートすることを目的として実施している。平成 28 年度は、8 件 105 人の利用があった。

月	日		学校名	内容
4	4	月	壱岐高・壱岐商高・虹の原特支職員研修	センターと博物館の見学
6	1	水	壱岐市立志原小学校	センターの見学
	26	日	壱岐市立鯨伏小学校親子レク	センターの見学
7	8	金	京都大学	センターの見学
	25	月	長崎県立佐世保北中学校１年生	センターの見学
9	6	火	長崎国際大学	センターと博物館の見学
10	18	火	壱岐市立郷ノ浦中学校	職場体験学習
10	20	木	虹の原特別支援学校壱岐分校	センターの見学

センターの見学



職場体験学習

（4）東アジア考古学研究事業

①東アジア国際シンポジウムの開催

東アジア考古学研究室は本県が古代から東アジア交流の要衝として独特の文化を育んできた歴史的経緯を踏まえ、東アジア的視点に立った考古学研究を推進しその成果を発表している。平成 28 年度は「大海を渡り、一支国に至る。一国境の島　壱岐・原の辻遺跡における日韓交流―」をテーマとしてシンポジウムを開催した。

○主　催　長崎県埋蔵文化財センター

○共　催　釜山博物館、長崎歴史文化博物館、壱岐市立一支国博物館

○後　援　長崎市、壱岐市、長崎市教育委員会、壱岐市教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加教育委員会、朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、壱岐新聞社、壱岐新報社、ＮＨＫ長崎放送局、ＫＴＮテレビ長崎、ＮＢＣ長崎放送、ＮＣＣ長崎文化放送、ＮＩＢ長崎国際テレビ、壱岐ビジョン株式会社

○日　時　壱岐会場：平成 28 年 10 月 22 日（土）13:00 ～ 15:30
長崎会場：平成 28 年 10 月 23 日（日）13:30 ～ 16:00

○場　所　壱岐会場・関連講座：壱岐市立一支国博物館多目的ホール
長崎会場：長崎歴史文化博物館ホール

○参加者　315 名

○内　容　第Ⅰ部　原の辻遺跡における日韓交流
長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　古澤　義久
第Ⅱ部　三韓時代韓半島土器文化の展開と韓日交流の一側面
韓国・釜山博物館　安　海　成
（通訳）長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　古澤　義久
第Ⅲ部　パネルディスカッション
弥生時代の日韓交流
コーディネーター　福岡大学人文学部　武末　純一

【壱岐会場】 会場の様子

【壱岐会場】武末純一先生

【壱岐会場】安海成先生

【長崎会場】シンポジウムのメンバー

【長崎会場】会場の様子

【長崎会場】会場展示の様子

②長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第７号の刊行

本センターの研究紀要は、開所以来毎年刊行を重ねている。第７号では次の６本の論考を掲載した。このうち、端野晋平氏論文は、前年の研究紀要第６号掲載の中村大介氏「支石墓の多様性と交流」に対するコメントであり、本研究紀要が支石墓に関する問題についての議論の場となる新しい展開をみせた。

古澤　義久　「平成 27 年度東アジア国際シンポジウム「ロード・オブ・ザ・コイン－弥生時代中国貨幣からみる交流－」の成果」
權　　旭宅　「韓半島～中国東北地域古代中国貨幣の出土様相」
川道　寛・片多　雅樹・辻田　直人「長崎県における黒曜石原産地研究の進展－原の辻遺跡原ノ久保地区石器群の分析を通して－」
片多　雅樹　「長崎県壱岐市・原の辻遺跡出土ガラス製品の蛍光Ｘ線分析」
古澤　義久　「壱岐市名切遺跡出土韓半島系土器について」
端野　晋平　「中村大介著「支石墓の多様性と交流」に対するコメント」

Ⅱ．平成 28 年度　県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
長崎市教育委員会	女神台場跡	女神台場跡	—	—
佐世保市教育委員会	国指定名勝　平戸領地方八奇勝	高巌、潜龍水、石橋、大恵観、眼鏡石、巌屋宮、福石山、潮之目	佐世保市文化財調査報告書	15
大村市教育委員会	竹松遺跡	竹松遺跡	大村市文化財調査報告書	41
	大村市　市内遺跡発掘調査概報８	黒丸遺跡、冷泉遺跡		42
平戸市教育委員会	市内遺跡確認調査報告書ＸＶＩ	種子田遺跡、平戸城跡、志々伎小田遺跡、鶴峯焼窯跡推定地、飯田遺跡、横島	平戸市の文化財	72
対馬市教育委員会	金石城跡	金石城跡	対馬市文化財整備報告書	2
壱岐市教育委員会	市史跡カラカミ遺跡5次、西福寺古墳、串山ミルメ浦遺跡、人羅古墳	カラカミ遺跡（IX区）、西福寺古墳、串山ミルメ浦遺跡、人羅古墳	壱岐市文化財調査報告書	27
雲仙市教育委員会	栗山遺跡・下栗山遺跡	栗山遺跡、下栗山遺跡	雲仙市文化財調査報告書	15
	十園遺跡Ⅲ・伊古遺跡Ⅳ	十園遺跡、伊古遺跡		16

Ⅲ．平成 28 年度　県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
新幹線文化財調査事務所	中田遺跡・専岩遺跡	中田遺跡・専岩遺跡	新幹線文化財調査事務所調査報告書	1
	平野遺跡	平野遺跡		2
	上三反田遺跡	上三反田遺跡		3
	竹松遺跡Ⅰ	竹松遺跡Ⅰ		4
	小路口遺跡	小路口遺跡	長崎県文化財調査報告書	213
	竹松遺跡	竹松遺跡		214
	黒丸遺跡	黒丸遺跡		215
長崎県埋蔵文化財センター	長崎県埋蔵文化財調査年報24（平成27年度調査分）	一里松遺跡、三城城下跡、立小路遺跡、竹松遺跡、川端遺跡隣接地、今富城跡、三城城跡、宮下貝塚、原の辻遺跡、平ノ前城跡、長崎奉行所跡、滝河原遺跡、百間竈遺跡、鷹島海底遺跡	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	19
	原の辻遺跡	原の辻遺跡		20
	井樋堤塘跡	井樋堤塘跡		21
	練早家御屋敷跡Ⅱ	練早家御屋敷跡		22

Ⅳ．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

1．事業別発掘調査届出件数の推移

調査の目的・契機	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
a 道　路	4	(3)	12	(8)	6	(3)	18	(15)
b 鉄　道	13	(8)	15	(10)	9	(5)	7	(2)
c 空　港								
d 河　川	3		2		4		2	
e 港　湾								
f ダ　ム								
g 学校建設	1	(1)	1	(1)	5	(2)	1	
h 住　宅	11	(9)	5	(4)	10	(8)	10	(9)
i 個人住宅	9	(9)	19	(19)	15	(15)	17	(17)
j 工　場			1	(1)			1	(1)
k 店　舗	7	(7)	3	(1)	1	(1)	1	(1)
l 個人住宅兼工場または店舗	1	(1)	2	(2)	1	(1)	1	(1)
m その他の建物	17	(12)	10	(10)	13	(11)	12	(11)
n 宅地造成	10	(10)	10	(10)	10	(10)	10	(10)
o 土地区画整理								
p 公園造成	1	(1)	1		3	(1)		
q ゴルフ場								
r 観光開発			1					
s ガス・電気・水道等	4	(3)			2	(1)	1	
t 農業基盤整備事業	6	(3)	15	(10)	15	(13)	21	(18)
u その他の農業関係事業					2	(2)	1	(1)
v 土砂採取			3	(1)				
w その他の開発	12	(12)	13	(13)	21	(18)	14	(12)
x 自然崩壊							1	(1)
y 保存目的の範囲内容確認調査	11	(1)	10	(10)	9	(9)	6	(5)
z 学術調査	1		1	(1)	4	(2)	2	(2)
発掘調査届出件数合計	111		124		130		126	

※（ ）数字は届出件数のうち「試掘・範囲確認調査」の報告数

2．県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　※（ ）内は嘱託職員の外数

区　分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
県	14(22)	16(32)	17(30)	16(17)	14(17)
市町	36(14)	38(14)	40(11)	36(13)	39(12)
総　計	86	100	98	82	82

Ⅴ．平成 28 年度　長崎県における発掘調査の履歴

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積(㎡)	備考
一里松遺跡	諫早市	県(新幹線)	2016/4/21	2016/6/20	鉄道	本調査	580	ICH201601
三城城下跡	大村市	県(新幹線)	2016/5/25	2016/8/26	鉄道	本調査	1,470	SJK201602
立小路遺跡	大村市	県(新幹線)	2016/6/16	2016/11/29	道路	本調査	1,700	TSJ201603
竹松遺跡	大村市	県(新幹線)	2016/6/20	2016/10/11	鉄道(車両基地)	本調査	2,300	TAK201604
川原遺跡(隣接地)	大村市	県(新幹線)	2016/9/26	2016/9/30	道路	試掘	80	KBR201605
今富城跡	大村市	県(新幹線)	2016/10/18	2016/11/21	鉄道	本調査	420	IMA201606
三城城跡	大村市	県(新幹線)	2016/10/24	2016/11/10	鉄道	試掘・範確	52	SJJ201607
竹松遺跡	大村市	県(理文)	2016/10/24	2017/2/10	道路(都市計画道路)	本調査	1,237	TAK201609
原の辻遺跡	壱岐市	県(理文)	2016/10/31	2016/12/28	保存目的	範確	300	HAR201610
平ノ前城跡	大村市	県(新幹線)	2016/12/7	2017/2/8	鉄道	本調査	220	HNM201611
長崎奉行所跡	長崎市	県(理文)	2017/1/23	2017/1/27	その他建物(図書館建替)	範確	12	NSB201612
滝河原遺跡	新上五島町	新上五島町	2017/2/13	2017/2/15	その他開発(携帯電話無線基地局新設工事)	本調査	9	TKG201613 支援:県埋文
百間鷹遺跡	五島市	五島市	2017/2/13	2017/2/15	その他開発(小型風力発電設置)	試掘・範確	8	HYK201614 支援:県埋文
鷹島海底遺跡	松浦市	県(理文)	2017/2/27	2017/3/4	保存目的	音波探査	594,657	TKS201615
銅座町遺跡	長崎市	長崎市	2016/3/15	2016/3/30	個人住宅兼工場または店舗	試掘	8	
八百屋町遺跡	長崎市	長崎市	2016/3/23	2016/4/5	その他建物(マンション)	試掘	4	
出島和蘭商館跡	長崎市	長崎市	2016/4/1	2016/6/24	河川	本調査	300	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2016/10/13	2016/10/24	住宅	範確	930	
出島和蘭商館跡	長崎市	長崎市	2016/9/8	2016/10/31	その他建物(橋梁建築)	本調査	60	
小島養生所跡	長崎市	長崎市	2016/8/17	2017/2/15	学校建設	本調査	392	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2016/12/5	2017/1/30	道路	本調査	106	
桜町遺跡	長崎市	長崎市	2017/1/17	2017/1/31	その他の建物(集合住宅)	範確	12	
天神洞穴(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2016/4/20	2016/4/22	宅地造成	試掘	7	
上原遺跡	佐世保市	佐世保市	2016/4/26	2016/4/26	個人住宅	範確	5	
瀬戸越遺跡	佐世保市	佐世保市	2016/6/24	2016/4/27	その他建物(集合住宅)	範確	5	
宮の本遺跡	佐世保市	佐世保市	2016/5/18	2016/7/6	その他開発(耕作地)	範確	500	
新行江遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2016/7/25	2016/7/25	店舗	試掘	20	
広田城跡	佐世保市	佐世保市	2016/5/10	2016/10/4	住宅	本調査	380	
三川内西窯	佐世保市	佐世保市	2016/10/25	2016/11/4	その他開発(法面工事)	範確	6	
瀬戸越遺跡	佐世保市	佐世保市	2016/12/14	2016/12/14	住宅	範確	1	
瀬戸越遺跡	佐世保市	佐世保市	2017/2/14	2017/2/15	個人住宅	範確	2	
竹辺D遺跡	佐世保市	佐世保市	2017/3/8	2017/3/9	個人住宅	範確	4	
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	佐世保市	2016/8/1	2017/3/7	ガス・電気・水道等	本調査	183	
直谷稲荷神社岩陰遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2017/3/13	2017/3/17	その他建物(保育園増築)	試掘	5	
上の原遺跡	島原市	島原市	2016/6/1	2016/6/2	個人住宅	範確	4	
泉遺跡	諫早市	諫早市	2016/4/26	2016/5/20	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範確	1	
小崎畑遺跡	諫早市	諫早市	2016/5/31	2016/6/24	道路・宅地造成	範確	4	
萬福寺跡	諫早市	諫早市	2016/9/9	2016/10/7	宅地造成	範確	12	
貝津・横島B遺跡	諫早市	諫早市	2016/11/24	2016/12/16	その他開発(盛土造成)	範確	4	
坂口館跡(隣接地)	大村市	大村市	2016/4/8	2016/4/11	個人住宅	試掘	5	
立小路遺跡	大村市	大村市	2016/4/22	2016/4/25	その他建物(デイサービス施設)	範確	14	
聖宝寺跡	大村市	大村市	2016/5/13	2016/5/17	住宅	範確	11	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/5/14	2016/5/20	道路	範確	23	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/5/18	2016/5/23	個人住宅	範確	12	
冷泉遺跡	大村市	大村市	2016/6/6	2016/6/8	個人住宅	範確	7	
下久原遺跡	大村市	大村市	2016/6/7	2016/6/15	宅地造成	範確	27	
三城城下跡	大村市	大村市	2016/6/15	2016/6/24	宅地造成	範確	32	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/6/6	2016/7/7	宅地造成	範確	34	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/5/24	2016/7/22	その他開発(テニスコート建設)	範確	260	
荒瀬遺跡	大村市	大村市	2016/7/25	2016/7/26	その他の農業関係事業(農道等を含む)	範確	8	
竹松遺跡	大村市	大村市	2016/8/1	2016/8/5	鉄道	範確	5	
三城城下跡	大村市	大村市	2016/8/22	2016/8/24	個人住宅	範確	8	
竹松遺跡	大村市	大村市	2016/9/15	2016/9/16	個人住宅	範確	8	
弥勒寺跡	大村市	大村市	2016/9/30	2016/9/30	個人住宅	試掘	7	
古賀島4遺跡	大村市	大村市	2016/10/1	2016/10/12	宅地造成	範確	60	
富の原遺跡	大村市	大村市	2016/9/1	2016/10/13	その他建物(マンション)	試掘・範確	378	
新城跡	大村市	大村市	2016/10/17	2016/10/17	その他開発(駐車場造成)	試掘	15	
古賀島4遺跡	大村市	大村市	2016/11/7	2016/11/8	宅地造成	範確	8	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/11/14	2016/11/16	住宅	範確	18	
富の原遺跡	大村市	大村市	2016/11/14	2016/12/7	住宅	範確	60	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/12/12	2016/12/16	住宅	範確	22	
聖宝寺跡	大村市	大村市	2016/12/12	2016/12/20	宅地造成	範確	4	

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積(㎡)	備考
富の原遺跡	大村市	大村市	2017/1/30	2017/2/10	住宅	範囲	63	
悦入遺跡	大村市	大村市	2017/2/27	2017/2/28	宅地造成	範囲	12	
寿古遺跡	大村市	大村市	2017/2/21	2017/2/24	個人住宅	範囲	7	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2017/3/8	2017/3/24	住宅	範囲	102	
聖宝寺跡	大村市	大村市	2016/12/9	2017/2/28	道路	試・範	85	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2016/11/10	2017/3/6	その他開発(テニスコート建設)	本調査	1,700	
種子田遺跡	平戸市	平戸市	2016/5/13	2016/5/14	その他開発(貯水槽)	範囲	6	
亀岡城跡	平戸市	平戸市	2016/7/4	2016/7/18	その他開発(駐車場ゲート設置)	範囲	20	
鶴事後窯跡	平戸市	平戸市	2016/8/2	2016/8/4	その他開発(復元)	試掘	30	
文々仮小田第1遺跡	平戸市	平戸市	2016/10/3	2016/10/4	道路	範囲	5	
飯田遺跡	平戸市	平戸市	2016/12/12	2016/12/16	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	30	
大石C遺跡	松浦市	松浦市	2016/12/7	2016/12/27	その他建物(牛舎、堆肥舎)	範囲	20	
大石C遺跡	松浦市	松浦市	2017/2/6	2017/2/9	その他建物(アンテナ、物置)	範囲	16	
青島遺跡	松浦市	松浦市	2017/2/15	2017/2/22	その他建物(アンテナ、物置)	範囲	8	
青島遺跡	松浦市	松浦市	2017/2/22	2017/2/23	その他建物(アンテナ、物置)	範囲	1	
鷹島海底跡	松浦市	松浦市	2017/2/19	2017/2/28	学術調査	範囲	700	
日本山城遺跡	松浦市	松浦市	2017/3/7	2017/3/17	保存目的	範囲	11	
越高遺跡	対馬市	対馬大学	2016/9/11	2016/9/21	学術調査	範囲	29	
越高遺跡	対馬市	対馬大学	2016/10/3	2016/10/20	保存目的	範囲	4	
志多留遺跡	対馬市	対馬市	2016/7/20	2016/7/21	道路	範囲	4	
カラカミ遺跡	壱岐市	壱岐市	2016/7/1	2016/12/12	保存目的	範囲	210	
西福寺古墳	壱岐市	壱岐市	2016/11/16	2016/12/12	自然崩壊	範囲	20	
串山ミルメ浦遺跡	壱岐市	壱岐市	2016/12/1	2017/2/1	保存目的	範囲	50	
原の辻遺跡	壱岐市	壱岐市	2017/1/25	2017/3/15	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	500	
百間竈遺跡	五島市	五島市	2017/2/13	2017/2/15	その他開発(小型風力発電施設)	範囲	8	
合津城(受津城)跡	雲仙市	雲仙市	2016/5/26	2016/5/26	道路	範囲	4	
山田条里跡	雲仙市	雲仙市	2016/4/19	2016/5/27	道路	範囲	8	
真正寺条里跡	雲仙市	雲仙市	2016/6/9	2016/6/10	個人住宅	範囲	2	
遠目塚遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/7/1	2016/7/1	個人住宅	範囲	2	
源次広野遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/6/27	2016/8/2	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	110	
山田条里跡	雲仙市	雲仙市	2016/8/4	2016/8/4	道路	範囲	2	
山田原遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/7/19	2016/8/5	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	49	
弘法原遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/7/19	2016/8/5	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	49	
稲荷鬼塚古墳	雲仙市	雲仙市	2016/6/15	2016/8/13	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	102	
蘇原遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/8/16	2016/8/17	個人住宅	範囲	3	
城ノ尾原遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/10/18	2016/10/20	その他建物(特別擁護老人ホーム)	範囲	8	
上木場遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/11/1	2016/11/1	その他建物(介護施設建設)	範囲	2	
山田条里跡	雲仙市	雲仙市	2016/11/28	2016/11/30	工場	範囲	6	
山田条里跡	雲仙市	雲仙市	2017/2/27	2017/2/28	道路	範囲	4	
原木遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/1/16	2017/1/16	個人住宅	範囲	2	
水口田遺跡	雲仙市	雲仙市	2017/3/7	2017/3/8	個人住宅	範囲	2	
永平遺跡	雲仙市	雲仙市	2016/8/5	2017/3/24	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	2,620	
宮田地区	雲仙市	雲仙市	2016/12/16	2017/3/17	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	50	
中萩原遺跡	南島原市	南島原市	2016/4/20	2016/4/28	道路	試掘・範囲	12	
東大隈遺跡	南島原市	南島原市	2016/4/20	2016/4/28	道路	試掘・範囲	16	
妙香古墳	南島原市	南島原市	2016/5/9	2016/5/13	道路	試掘・範囲	9	
二宿遺跡	南島原市	南島原市	2016/6/8	2016/7/19	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	100	
史跡原城跡(隣接地)	南島原市	南島原市	2016/6/15	2016/7/20	その他開発(駐車場整備)	試掘	24	
権現脇遺跡	南島原市	南島原市	2016/5/26	2016/7/29	保存目的	範囲	380	
水打場遺跡	南島原市	南島原市	2016/8/1	2016/9/1	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	60	
上横馬場遺跡	南島原市	南島原市	2016/8/24	2016/9/8	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	16	
下板首遺跡	南島原市	南島原市	2016/9/9	2016/9/16	農業基盤整備事業(農道等を含む)	試掘	4	
新堂原遺跡	南島原市	南島原市	2016/11/1	2016/11/4	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	8	
東石原遺跡	南島原市	南島原市	2016/11/7	2016/11/11	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	8	
東新堂原遺跡	南島原市	南島原市	2016/11/11	2016/11/25	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	8	
養台寺跡	南島原市	南島原市	2016/11/24	2016/11/29	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	4	
出口遺跡	南島原市	南島原市	2016/8/1	2016/11/30	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	1,334	
野中A遺跡	南島原市	南島原市	2016/11/28	2016/12/12	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	20	
野中D遺跡	南島原市	南島原市	2016/12/6	2016/12/12	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	4	
石原遺跡	南島原市	南島原市	2016/11/7	2016/12/15	農業基盤整備事業(農道等を含む)	範囲	12	
慈昌寺跡	南島原市	南島原市	2017/1/16	2017/1/18	道路	範囲	28	
辻田原	南島原市	南島原市	2017/2/17	2017/2/18	個人住宅	範囲	3	
権現脇遺跡(OJE)	南島原市	南島原市	2016/12/1	2017/3/17	河川	本調査	1,797	
笛吹遺跡	小値賀町	小値賀町	2016/11/15	2017/3/30	住宅	本調査	11	

Ⅵ. 平成 28 年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財調査の概要

1. 一里松遺跡（いちりまついせき）【遺跡調査番号：２０１６０１】

所 在 地　諫早市平山町 52 番地 5　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設
調査期間　平成 28 年 4 月 21 日～ 6 月 20 日
報 告 書　平成 29 年度刊行予定
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　580 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

諫早市は大村湾・橘湾・有明海に挟まれた地峡部にある。西の大村湾に西大川と東大川、東の有明海へ本明川と半造川が流れ、水上交通と陸上交通の結節点として、中世から近世にかけて東大川河口部の津水港が栄えた。調査地は、諫早旧城下町南西の平山町に位置し、大村湾に流れ込む東大川によって灌漑される狭小な水田地帯である。

遺跡位置図

調　査

調査区は 20m × 20m のグリッドを設定した。また、調査計画にあわせて任意に 1 ～ 3 区の調査小区を設定し、各小区単位で調査を実施した。土層の記録は調査区壁に沿って行った。遺物の取り上げは、所定の他に、特に必要と認めたものは出土地点の座標を記録し調査を実施した。

調査地遠景（右岸手前が調査地、遠くに大村湾）

まとめ

今回の調査では、第Ⅳ層と第Ⅴ層が縄文時代の遺物包含層であることを確認した。第Ⅳ層の年代は、縄文時代早期末の塞ノ神式から前期の轟Ｂ式・西唐津式・曽畑式、中期初頭の船元式に該当する土器の他、坂の下式に該当する土器の出土から縄文時代後期初頭の時期に堆積したもので、その際に早期末から中期初頭の土器が混入したものと推察される。出土例の稀な石製装身具などが出土している第Ⅴ層の年代は、縄文時代早期・前期の遺物が出土していることから縄文時代前期の遺物包含層となる。出土土器の型式については、Ⅴｂ層は曽畑式（曽畑Ⅱ式）で占められており、この時期に限定された包含層である。

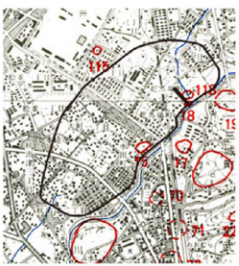
【調査担当：濱村・新久保】（文責：村川）

2.三城城下跡（さんじょうじょうかあと）【遺跡調査番号：201602】

所 在 地　大村市乾馬場町 905 番地 5　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設
調査期間　平成 28 年 5 月 25 日～平成 28 年 8 月 26 日
報 告 書　平成 29 年度刊行予定
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　1,470 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

三城城下跡は、大上戸川中流右岸に広がる標高約 7 ～ 18m の扇状地に立地する。1541 年頃の様子を描いた『大村館小路割之図』では、三城城下跡には大村氏の居館である大村館を中心とした館町が形成されていたことが分かる。この絵図に記録された直線的な街区は、江戸時代以降も踏襲され、現在においても生活道路として利用されている。今回の調査地点は遺跡の北東部に位置し、先の絵図には「千乗院」「萬乗院」「長久寺」と記載されている。このことから、中世から近世の寺跡の検出が期待された。



遺跡位置図

調　査

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設地のうち、範囲確認調査で遺物や遺構が検出された南北約 120m、東西約 12m の範囲で調査を行った。調査区は、東西に伸びる生活道路で 3 箇所に細分し、南から A 区・B 区・C 区と呼称した。A 区では、掘立柱建物跡 1 棟（SB1）、井戸 1 基（SE01）、柵列 1 条のほか、多数のピット群を確認した。掘立柱建物跡や井戸からは、初期伊万里や古唐津をはじめとした陶磁器が出土し、1630 ～ 1650 年頃の遺構と考えられる。C 区でもピット群を検出し、掘立柱建物跡 4 基、柵列 1 条を確認した。柱穴は、A 区と異なり根石を持つものが多く、出土遺物は植木鉢やくらわんか手の碗が出土していることから、18 世紀頃の遺構群と考えられる。

A 区遺構検出状況

まとめ

A 区の掘立柱建物跡及び井戸は、1623 ～ 1660 年にかけて存在した長久寺と関連する遺構と考えられる。また、C 区では 18 世紀を中心とした建物跡群を検出し、文献や絵図では不明な点が多い 17 世紀後半以降の土地利用を物語る貴重な成果といえる。

【調査担当：中尾・小川】（文責：中尾）

3．立小路遺跡（たてしょうじいせき）【遺跡調査番号：２０１６０３】

所 在 地　大村市鬼橋町 1169 番地　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　都市計画道路池田沖田線建設
調査期間　平成 28 年 6 月 16 日～平成 28 年 11 月 29 日
報 告 書　平成 30 年 3 月刊行予定
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　1,700 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

立小路遺跡は、大村市内最大級の２級河川である郡川左岸の氾濫原に位置する。周辺の遺跡として、北に平野遺跡（古墳時代）と川端遺跡（弥生時代）、南に小路口遺跡（縄文時代）や鬼の穴古墳が隣接する。今回の調査は、立小路遺跡範囲内の北東の一端である。

遺跡位置図

調　査

都市計画道路池田沖田線工事予定地のうち、鬼橋地区の立小路遺跡範囲内、北東部 1,700 ㎡について本調査を行った。

遺構は埋甕２基、竪穴建物跡２棟、掘立柱建物跡２棟、土坑４基、ピット 36 基を検出した。埋甕は２基が隣接してみつかり、１基は上下ともにほぼ完形、もう１基は 300 片以上の破片の状態で検出した。竪穴建物跡は、覆土出土遺物から弥生時代中期後葉の須玖Ⅱ式の時期と思われる。掘立柱建物跡のうち、１号掘立柱建物跡は２間×３間の母屋に北と西に庇がついており、柱穴内からは 12 世紀後半の白磁皿片が出土した。２号掘立柱建物跡の柱穴からは、12 世紀代の滑石製石鍋片が出土している。２基の掘立柱建物は、遺構内の遺物の年代や覆土の類似性、南辺の軸の重なりなどから、一方の廃絶後に時間を空けずに建て替えられた可能性が高い。

３区 SK02（埋甕）断ち割り状況

まとめ

今回の調査で、縄文時代晩期、弥生時代、中世とそれぞれの活動痕跡を確認することが出来たが、調査地点が郡川によって形成された氾濫原に位置することや標高が若干低いことなどから、むしろ断続的に使われていた可能性が考えられる。当該調査地より北側に広がる川端遺跡では、環濠と考えられる溝が検出されていることから、集落の中心域は北側にあった可能性も考えられる。

【調査担当：川畑・小松】（文責：小松）

4．竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：２０１６０４】

所 在 地　大村市沖田町740番地　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　都市計画道路池田沖田線建設
調査期間　平成28年6月20日～平成28年10月11日
報 告 書　刊行予定
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　2,300㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後部分的に工事

立　地

大村扇状地は県内最大の扇状地で、南北約6㎞、東西約2.5㎞の広がりを持つ。この大村扇状地上の当遺跡の周辺は、急峻な山岳から派生した山間部、広い平地を有する扇状地、そして内湾に面した海岸部と多様な自然環境を呈している。竹松遺跡は、扇状地の北側端部、標高10m～15mに位置し、南東から北西に向かって緩やかに傾斜をする平地で、水田や畑として利用されていた。当遺跡より東へ約200mの位置には郡川が流れている。

遺跡位置図

調　査

調査区グリッドは、世界測地系座標に合わせて20m×20mの方眼を組み設定した。本調査地は、調査開始前の土地の利用形態から大きく3地点に分けられ、調査のメインとなる「宅地部」、宅地部に取りつく私道が作られていた「道路部」、昨年度の調査（TAK201506）により権が出土した耕作地であり調査区の北東に位置する「北東部」、と呼称した。「道路部」では、自然流路等で、水晶製の切子やガラス小玉を検出したが、元の位置を留めているとは考えがたく、いずれも流れ込みによるものと判断された。

調査状況

まとめ

主な調査成果は、以下の5つである。

①調査地が微高地状を呈した理由は、盛土による。「宅地部」では特に北側で削平が進む。②「宅地部」において、「てぼ屋敷」の存在を証明する遺構は確認されなかった。③「宅地部」では谷状地形が確認された。④「道路部」では東西に流れる自然流路が確認された。⑤「東北部」では、TAK201506検出の「権」に関連する遺構は確認されなかった。

【調査担当：白石・田島】（文責：村川）

5．川端遺跡隣接地（かわばたいせき）【遺跡調査番号：２０１６０５】

所 在 地　大村市鬼橋町 123 番　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　都市計画道路池田神田線建設
調査期間　平成 28 年 9 月 26 日～平成 28 年 9 月 30 日
報 告 書　刊行なし
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　8 ㎡
調査区分　試掘調査
処　　置　本調査後工事

立　地

大村市は長崎県本土部のほぼ中央に位置し、大村湾の東側沿岸にあたる。市域のほとんどは、北部を流れる郡川によって形成された広大な扇状地上に立地する。本調査地点も同様で、郡川西岸の微高地で標高 25m 前後を測る場所に所在する。

本調査区は、西に平野遺跡（古墳時代）、東に川端遺跡（弥生時代）、南に立小路遺跡（縄文時代）の 3 遺跡に隣接する。

遺跡位置図

調　査

都市計画道路建設地の鬼橋地区の未調査区約 834 ㎡の試掘対象地で、未耕作地に道路予定地について南北に 20m 間隔で、2m 四方の試掘坑を 2 箇所設け、確認調査を実施した。

まとめ

基本層序は以下のとおりである。

1 層　表土（耕作土）暗褐色土 7.5YR3/3
2 層　床土　灰褐色粘質土（硬質でマンガン沈着あり）7.5YR4/2
3 層　黒色砂質土（黒色腐植土層）7.5YR2/1
TP2 では、拳大から人頭大の礫を多量に含む。
4 層　明黄褐色粘砂土 10YR7/6

作業風景

竹松遺跡南部と平野遺跡の基本層序と同一と考えられる。1･2 層は近現代のプラスチック片･ガラス片等も含み農客土と考えられる。3 層からは、弥生時代から古墳時代土器および近世の陶磁器が出土した。また、TP1 の 3 層上面で石列が検出された。共出する遺物がないので時代は特定できないが 3 層上面での検出であるので古代から中世のものではないかと思われる。

遺物は、3 層から弥生土器、土師器、中世～近世の陶磁器片が出土した。4 層からは掘削した面積が狭かったため、遺物の出土はなかった。

【調査担当：浦田】（文責：浦田）

6．今富城跡（いまとみじょうあと）【遺跡調査番号：２０１６０６】

所 在 地　大村市皆同町 485 番地 5　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設
調査期間　平成 28 年 10 月 18 日～平成 28 年 11 月 21 日
報 告 書　平成 29 年 10 月刊行予定
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　420 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

今富城跡は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、大村扇状地を形成した郡川下流の右岸に位置する独立丘陵の全域を占めている。郡川右岸のより下流の独立丘陵には旧石器時代から中世の集落遺跡である寿古遺跡や中世城郭の好武城が位置する。中世後期に大村氏の居城として築かれ、大村館、三城城跡の北方を押さえる出城として、江戸初期まで利用された。第二次大戦中には海軍の高射砲陣地としても利用され、コンクリート構造物が残されている。

遺跡位置図

石積検出作業風景

調　査

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設地のうち、遺跡西側の曲輪外郭部分 420 ㎡について本調査を実施した。調査区は上部の平地と下部に分かれ、その間の急斜面の部分については安全上の理由から掘削を行わなかった。上部では時期不明の石組状遺構が検出されたが、想定された空堀は下部のトレンチから検出されなかった。遺物としては調査区内から近現代遺物を含め、コンテナ 2 個分が出土した。中世前期の貿易陶磁の白磁碗Ⅳ類や龍泉窯系青磁椀、瓦質土器のこね鉢の他、戦国期の土師質土器の小皿の底部、15 世紀末から 16 世紀の明染付の青花皿、近世陶磁器では、17 世紀末ころの二彩手の陶器大皿の底部、18 世紀のくらわんか手の染付皿などが出土した。

まとめ

今回の調査では掘立柱建物跡や柵列など目立った遺構を見出すことが出来なかった。一方で、調査区からの出土遺物としては、16 世紀後半から 17 世紀初頭に位置づけられる明染付や土師器皿が見つかり、文献記載から判明する今富城の活動時期を裏付けた。中世前期の貿易陶磁の白磁碗Ⅳ類や龍泉窯系青磁椀、畿内系の瓦器椀なども出土した点については、北西に隣接する寿古遺跡との関係から説明すべきと考える。加えて、近世村落の生活の様相を示す唐津焼転用の面子や日常磁器が出土した。出土遺物の面から遺跡の利用変遷に迫ることが出来た調査であった。

【調査担当：濵村・新久保】（文責：堀内）

7. 三城城跡（さんじょうじょうあと）【遺跡調査番号：201607】

所 在 地　大村市三城町 953 番地 8　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設
調査期間　平成 28 年 10 月 24 日～平成 28 年 11 月 10 日
報 告 書　刊行予定なし
調査担当　新幹線文化財調査事務所
調査面積　52 ㎡
調査区分　試掘及び範囲確認調査
処　　置　調査後工事

立　地

三城城は大村市の南西に位置し、多良山系から大村湾に向かって放射状にのびる丘陵の尾根先端部にある。第 18、19 代大村領主大村純忠と大村善前が永禄 7（1564）年から慶長 4（1599）年に玖島城を築城するまで使用された。北には大上戸川を挟んで中世末の大村館を中心とした三城城下が広がる。今回の調査区は三城城跡の北端から三城城下の南大上戸川の南側に位置する。西側に宝生寺跡が確認されている。

遺跡位置図

調　査

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設予定地の三城地区の未調査区について南北に任意に 2 箇所、20m 間隔で 5 箇所、新幹線工事に伴う市道路付け替え工事対象地で三城城跡の遺跡範囲にかかる 2 箇所の計 9 箇所に 2m 四方の試掘坑を設け確認調査を実施した。TP1・3・4・5 については盛土の堆積が厚かったため 3m 四方に広げ段を付けて掘削した。また、TP9 はコンクリート製の擁壁に挟まれた三角形の先端部にあり、2m 四方の試掘坑の設定は無理であったので樹木を伐採し土塁の残存を確認したにとどめた。

三城城跡調査状況（TP9 土塁残存部）

まとめ

試掘の結果、遺構や遺物の検出はなく、土塁以外は本調査の必要はないと考えられた。TP1 から 6 の地域は水田の耕作土を剥ぎ、その上に宅地化するために盛土をしたものと考えられる。TP7 では盛土の下に旧表土と三城城の丘陵から続くものと思われる地山の堆積が確認された。TP9 の土塁残存部については大村市に連絡し、現地で協議を行った。今後の措置については現在大村市と協議中である。

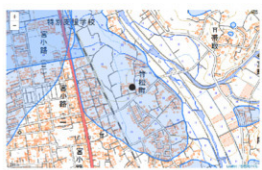
【調査担当：浦田・村川】（文責：村川）

8．竹松遺跡（たけまついせき）【遺跡調査番号：201609】

所 在 地　大村市竹松町 961-1　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　都市計画道路池田沖田線建設
調査期間　平成 28 年 10 月 24 日～平成 29 年 2 月 10 日
報 告 書　平成 30 年度刊行予定
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　1,237 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

竹松遺跡は更新世に形成された扇状地礫層を基盤とする大村平野北部に位置し、二級河川・郡川の下流域左岸に大規模に広がる遺跡で、縄文時代から中世の遺跡として周知されてきた。今回調査区はその南半にあたる。基本層序は、1～2a 層（耕作土）・2b 層（黒ボク土）と扇状地礫層にあたる 3 層（礫混褐色土）・4 層（礫層）となっている。北東側が高く南西側が低い旧地形が考えられ、現在住宅地となっている範囲が元は微高地状の自然堤防であったと想定される。



遺跡位置図

B 区遺構検出状況

調　査

検出した遺構総数は約 580 基で、内訳は掘立柱建物跡 1 棟・ピット列 3 列・集石遺構 3 基のほか、土坑や柱穴を含む多数のピットからなる。掘立柱建物跡 SB01 は建物規模 3 間×2 間（長軸長 5.5m・短軸長 3.9m）で、柱穴は平面略円形・長径 60cm 前後が主で最大でも 90cm は超えない。長軸は座標北から西に 10 度ほど振れており平成 27 年度調査の倉庫跡群と一致する。ほか土坑 SK01 や集石遺構 SS03 で古銭が出土している。出土遺物では 1b・2a 層で黒曜石剥片や中近世の陶磁器片が多く見られたが、2b 層で中世の土器・陶磁器片が多少出土した以外、3 層以下での遺物は確認できなかった。縄文時代では石製垂飾 2 点や黒川式浅鉢口縁部片が数点出土した。また少数ながら、弥生時代後期の土器片や 5 世紀代の土師器高坏・丸底壺片も出土している。古代～中世では土師質・須恵質土器片や 12～13 世紀代を主とした中国産青磁・白磁片が多く出土しており、柱穴内の出土遺物もこの時期が多い。

まとめ

掘立柱建物跡 1 棟やピット列を含む中世を主とした柱穴・ピット群の検出が主要な調査成果である。これら柱穴・ピット群における建物跡の認定や遺構出土を中心とした遺物の検討が課題となる。

【調査担当：松元・宮木・前田】（文責：松元）

9．原の辻遺跡（はるのつじいせき）【遺跡調査番号：２０１６１０】

所 在 地　壱岐市芦辺町深江平触 33-4、32-4、32-3
調査主体　長崎県教育委員会
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査原因　原の辻遺跡調査研究事業
調査面積　300 ㎡
調査期間　平成 28 年 10 月 31 日～平成 28 年 12 月 28 日
調査区分　範囲確認調査
報 告 書　平成 30 年 3 月刊行予定
処　　置　調査後埋め戻し

立　地

調査対象地は芦辺高原地区の幡鉾川と丘陵に挟まれた標高約 5m の低地で、以前より水田として利用されていた。

調査区位置図

調　査

調査区は、現在の水路から 10m 西側に暗渠を避けるように 3 箇所、計 300 ㎡設定した。1 区は西から a 区、b 区、c 区と 3 分割し、2 区は、西から a 区、b 区と 2 分割した（図 20）。表土、客土（圃場整備の際の基盤）までをバックホウで掘削し、それ以下の層については人力で掘削した。

【1 号溝】　1b 区と 2a 区で検出された。断面形態は皿状である。近世・近代層除去後に確認され、弥生時代以前の無遺物層を掘り込んでいる。1b 区では残存幅約 1.5m、深さ約 30cm、溝底面の標高約 4.1m で、2a 区では残存幅約 1.5m、深さ約 30cm、溝底面の標高は約 4.2m である。覆土は大きく 2 層に分かれる。弥生土器及び古墳時代前期の土器片が多量に出土したほか三韓系瓦質土器・陶質土器が出土した。

1 号溝・2 号溝検出状況

【2 号溝】　1c 区、2b 区、3 区で検出された。断面形態は東側にやや段が設けられる隅丸台状である。近世・近代層除去後に確認され、弥生時代以前の無遺物層を掘り込んでいる。1c 区では残存幅 1.4m 以上、深さ約 50cm、溝底面の標高約 3.9m で、2b 区では残存幅約 1.3m、深さ約 50cm、溝底面の標高は約 3.9m である。覆土は大きく 2 層に分かれる。弥生土器のほか三角形粘土帯土器が出土している。

【1 号遺構】　1a 区で検出された。南側は収束しており、溝の出入口であった可能性がある。覆土は黒褐色粘質土で、内部からは多量の弥生土器及び古墳時代前期土器片が出土した。

【2 号遺構】　1a 区で検出した。北側は収束しており、西側の 1 号遺構と併せて溝の出入口であった可能性がある。多量の弥生土器及び古墳時代前期土器細片が出土した。

まとめ

本調査区では南北方向に伸びる溝を確認した。自然河川と環濠の間に該当する地区における土地利用の様相を示す成果を得ることができた。

【調査担当：川道・古澤・楠本】（文責：古澤）

10. 平ノ前城跡（ひらのまえじょうあと）【遺跡調査番号：２０１６１１】

所 在 地	大村市平町 1543-3 番地		
調査主体	長崎県教育委員会	**調査担当**	新幹線文化財調査事務所
調査原因	九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設	**調査面積**	220 ㎡
調査期間	平成 28 年 12 月 7 日～平成 29 年 2 月 8 日	**調査区分**	本調査
報 告 書	平成 30 年度刊行予定	**処　　置**	調査後工事

立　地

平ノ前城跡は、鈴田川が南北方向から東西方向へ流れを変える沖積地の最奥部、鈴田川流域の東隅にあって、北から南に向かって舌状に延びる丘陵の先端部付近に位置する。付近にはこの地域の主要幹線道路である国道 34 号線が走り、鈴田峠を境界とする同県諫早市との市境からは直線距離にして 1.2㎞ 程度である。新幹線建設に伴う平成 21 年度の遺跡分布調査の際に新たに発見され、遺跡として周知化された中世山城である。

遺跡位置図

調　査

今年度は新幹線の建設で切り通し工事が及ぶ範囲の内、南方向の堀切で区切られる平坦部（220 ㎡）を選定して調査を行った。調査地の北東側において石積遺構を検出した。長さ 4.6m、幅 0.4m、残存高 0.5m である。人頭大からそれよりやや大きい程度の風化砂岩礫を 1 段から 2 段程度積み上げて、築造されている。山城中心部南寄りの平坦部にあたることから、掘立柱建物跡、柵列といった遺構の検出が想定され入念に遺構検出作業を行ったが、こうした遺構は確認されなかった。遺物に関しては漳州窯や景徳鎮窯の 16 世紀を中心とした染付けや白磁と、有田焼の染付や煙管の吸口などの近世の遺物が検出されている。

完掘状況

まとめ

今回の調査地では、大部分において表土直下は地山であるが、尾根をはさんで、東西に地山の風化土の流れ込みが見られ、それぞれに遺物を包含した。平坦部においては、掘立柱建物跡、柵列といった遺構は確認されなかった。遺物は 16 世紀を中心とするものと、近世のものが見られ、近現代の遺物は見られない。山城の使用時期を知る手がかりであると同時に、遺跡が良好に残存していた可能性を示す。石積遺構のような小規模の地形の改変は認められるものの、ほとんどは丘陵の形状をそのままに留めており、築城に際し大規模な土地の改変は行われていないと考えられる。今後の斜面部の調査では、南側の掘切の詳細、切岸などを含む曲輪の構造や縦堀の存否などについて更なる解明が期待される。

【調査担当：白石・堀内】（文責：堀内）

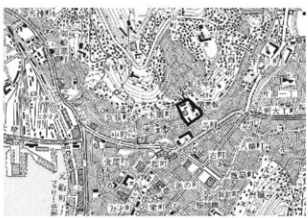
11. 長崎奉行所跡（ながさきぶぎょうしょあと）【遺跡調査番号：２０１６１２】

所 在 地　長崎市立山１丁目１番51号
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　新県立図書館建設
調査期間　平成29年１月23日～１月27日
報 告 書　未定

調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　10㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　取扱い協議

立　地

長崎奉行所跡は長崎市街を取り囲む山地の一部である金比羅山南側山裾の標高約30mに立地する。諏訪神社西方に位置する現長崎県立図書館敷地範囲及びその西側斜面下方の長崎歴史文化博物館敷地範囲が長崎奉行所跡として周知されている。



遺跡位置図

調　査

調査は長崎県立長崎図書館駐車場を対象地とし、３箇所の調査坑を設けて行った。ピロティー前に設定したTP2、建物横に設定したTP3では、駐車場舗装下で近代・現代の遺物を含む層の下部で周辺の基盤層となる赤褐色粘土混じりの風化礫層が検出されており、長崎奉行所に関わる遺物・遺構は確認されなかった。

TP1 南壁土層断面

図書館敷地南端に設定したTP1ではこの基盤層は検出されず、地表下1.8mほどの深さまで、造成土と思われる堆積が続く。堆積は大きく３つに分けられ、上層は現代の造成土となる。中層、下層は詳細な時期は不明であるが、下層から近世陶磁器片が出土しており、近世の造成土である可能性がある。中層では遺構と思われる石列及び掘り込みを確認した。下層では周辺の基盤層となる風化礫を含む層が見られ、周辺を切土した土を盛ったものと思われる。

まとめ

いずれの調査坑でも長崎奉行所に係る遺構は把握できなかったが、TP1で検出した造成土は詳細な時期は不明であるが近世のものである可能性がある。TP1中層から掘り込まれた落ち込みからは長崎奉行所の立山移転よりも古い時期の可能性のある近世陶磁器が出土しており、周辺の造成時期を考える上で興味深い資料である。

【調査担当：山梨、宮木】（文責：山梨）

12. 滝河原遺跡（たきごらいせき）【遺跡調査番号：２０１６１３】

所 在 地　新上五島町間伏郷字横真倉 1200 番
調査主体　新上五島町教育委員会
調査原因　KDDI 無線基地局新設工事
調査期間　平成 29 年 2 月 13 日～2 月 15 日
報 告 書　刊行予定なし
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　9 ㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

滝河原遺跡は、五島列島を構成する主要な島の一つである若松島の南西部にあり、滝河原瀬戸に南面する弓形に堆積した砂礫丘に立地する。

遺跡位置図

調　査

調査は KDDI による無線基地局新設に伴い行われた。無線基地局建設による掘削範囲は狭小であったが、工事箇所が桑山龍進氏による『五島一般調査報告』(1964) の中で報告された箱式石棺墓確認箇所に近く、箱式石棺墓の検出が想定されたことから、本調査を実施することになった。無線基地局の基礎は 1.5m × 1.5m の幅であったが、地元住民の話から地山が礫主体という状況であったため、3m × 3m でトレンチを設定し、安全面を考慮して法面をつけて調査を進めた。基本層序は、表土・造成土（第 1 層）、砂礫層（第 2 層）である。表土面から礫層まで人力掘削を行い、板石や礫の違いなどに注意を払ったが、遺構は検出されなかった。報告にある箱式石棺墓は、砂礫層上部にあったらしく、現在の道路面の高さで露出していたという。遺物は、弥生土器片 11 点、白磁片 1 点、骨片 1 点、黒曜石 3 点が出土したが、いずれも砂礫層上部からの出土であった。

土層断面状況

まとめ

今回の調査では、遺構を確認することはできなかった。遺物も、第 2 層上部からのみ出土し、掘削を進めるにつれて出土しなくなった。表土から 2m 程下げたところで、遺構はないと判断し、安全面も考慮して調査を終了した。

【調査担当：山梨・宮木】（文責：宮木）

13. 百間竈遺跡（ひゃっけんかまどいせき）【遺跡調査番号：２０１６１４】

所 在 地　五島市三井楽町波砂間字里畑 142　他
調査主体　長崎県教育委員会
調査原因　小型風力発電設置工事
調査期間　平成 29 年 2 月 13 日～平成 29 年 2 月 15 日
報 告 書　刊行予定なし
調査担当　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　8 ㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事

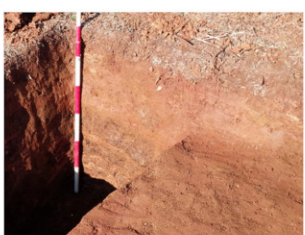
立　地

百間竈遺跡の所在する三井楽半島は、新生代第三紀に形成された楯状火山・京ノ岳の噴出物からなる緩傾斜の溶岩台地であり、遺跡は半島の西海岸縁辺に立地する。遺跡範囲の南端は谷状となって小河川が流れ、海岸には黒褐色の玄武岩質溶岩が広がっている。

遺跡位置図

調　査

２箇所の工事範囲にそれぞれ 2m × 2m のトレンチを設定し、最大深度 1.2m まで人力掘削による調査を行ったが、遺構・遺物は認められなかった。土層は基盤である溶岩台地が風化した粘質土壌で多孔質の風化礫を含む。一方、遺跡の立地する台地下の海岸を踏査したところ、波打ち際で摩滅した多量の黒曜石片・石鏃１点及び少量の縄文土器片・弥生時代中期土器片を採集した。


土層断面状況

まとめ

今回の発掘調査では遺構・遺物ともに検出できなかったが、海岸で採集できる多量の黒曜石片からも台地上の遺跡の存在が推定でき、今後の開発事業等に際しては範囲確認調査が必要である。

【調査担当：松元】（文責：松元）

14. 鷹島海底遺跡（たかしまかいていいせき）【遺跡調査番号：２０１６１５】

所 在 地　松浦市鷹島町神崎免

調査主体　長崎県教育委員会

調査原因　保存目的

調査期間　平成 29 年 2 月 27 日～ 3 月 4 日

報 告 書　平成 29 年度刊行予定

調査担当　長崎県埋蔵文化財センター

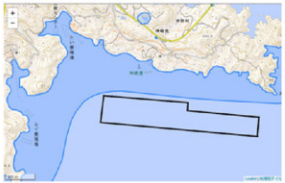
調査面積　594, 657 ㎡

調査区分　音波探査

処　　置　異常反射体の突き棒調査

立　地

鷹島海底遺跡は、伊万里湾に浮かぶ松浦市鷹島南岸延長 7.5km、汀線から沖合 200m の約 150 万㎡の範囲に広がる海底遺跡である。

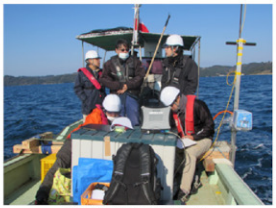


遺跡位置図

調　査

本遺跡の調査は、昭和 55 年から 30 年以上にわたり実施されており、蒙古襲来関係の遺物がこれまでに約 4,000 点発見されている。弘安の役（弘安 4・1281 年）に際し、元軍の軍船が沈没した場所として世界史的にも評価されている。平成 23 年には、琉球大学の調査によって元軍の軍船が初めて確認され、これを契機に神崎地区の 38 万 4 千平方メートルの範囲が鷹島神崎遺跡として平成 24 年 3 月 27 日に海底遺跡としては日本初の国史跡として指定されている。

長崎県教育委員会では、国指定史跡範囲の追加指定を目的として、平成 25 年度から 5 箇年計画で分布調査などを実施している。本年度は、鷹島海底遺跡の神崎地区南岸における海底表層地層探査を行った。これは、高分解能の音響を利用した地層探査装置を使用し、大陸棚表層堆積物を対象とした海底下の異常反射体の抽出を目的とした音波探査調査である。南北約 350m × 東西約 1,500m の調査区を、南北方向 5m 間隔で東西に走査するように探査した。



探査機を積載した船で調査

まとめ

本年度の調査では、100 箇所の異常反射体を検出し、その反射体を形状や深度によって分類、精査した結果、7 箇所において元寇船等の可能性が示された。本 7 箇所に関しては次年度以降に突き棒調査を実施することとした。

【調査担当：片多】（文責：片多）

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽうにじゅうご
書　名	長崎県埋蔵文化財調査年報25
副書名	平成28年度調査分
巻 次	25
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第23集
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鯨亀触515-1　TEL0920（45）4080
発行年月日	2017年11月30日

所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡番号			
一里松遺跡	諫早市	42204	248	20160421 ～ 20160620	580	鉄道
三城城下跡	大村市	42205	199	20160525 ～ 20160826	1,470	鉄道
立小路遺跡	大村市	42205	089	20160616 ～ 20161129	1,700	道路
竹松遺跡［車両基地］	大村市	42205	086	20160620 ～ 20161011	2,300	鉄道
川端遺跡（隣接地）	大村市	42205	181	20160926 ～ 20160930	8	道路
今富城跡	大村市	42205	055	20161018 ～ 20161121	420	鉄道
三城城跡	大村市	42205	115	20161024 ～ 20161110	52	鉄道
竹松遺跡［都市計画道路］	大村市	42205	086	20161024 ～ 20170210	1,237	道路
原の辻遺跡	壱岐市	42210	424	20161031 ～ 20161228	300	保存目的
平ノ前城跡	大村市	42205	204	20161207 ～ 20170208	220	鉄道
長崎奉行所跡	長崎市	42201	138	20170123 ～ 20170127	10	その他建物
滝河原遺跡	新上五島町	42411	017	20170213 ～ 20170215	9	その他開発
百間竈遺跡	五島市	42211	092	20170213 ～ 20170215	8	その他開発
鷹島海底遺跡	松浦市	42208	162	20170227 ～ 20170304	594,657	保存目的

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第 23 集

長崎県埋蔵文化財調査年報 25
［平成 28 年度調査分］

2017 年 11 月 30 日

発 行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町 2 番 13 号

印 刷　株式会社 昭和堂
諫早市長野町 1007-2